

富田林市都市計画マスタープラン 団体ヒアリングの実施について

1.目的

団体ヒアリングは、市内において各分野で活動する団体を対象にまちづくりに関する意見を聴取し、まちづくりの課題や都市整備の方針の検討などの参考とするため実施。

2.対象団体と実施日時

団体ヒアリングは以下の日時で実施した。

分野	団体	実施日時	場所
産業	農業委員会 (役員3名)	平成29年11月6日(月) 14:00~	市役所
	商工会(青年部) (6名)	平成29年11月14日(火) 19:00~	市民会館
市民自治	町総代会 (役員6名)	平成29年12月11日(月) 14:00~	市役所

3.団体ヒアリングの内容

団体ヒアリングの内容は以下のとおりである。

分野	団体	ヒアリング内容	
産業	農業委員会	農業に関する現状と課題の把握、 対応方針について	① 現状と問題点 ② 主な意見
	商工会(青年部)	商工業に関する現状と課題の把握、 対応方針について	
市民自治	町総代会	地域のまちづくり全般の現状と課題の把握、 対応方針について	

<農業委員会>

現状と問題点（課題）	主な意見
<p>■ 厳しい農業経営など</p> <ul style="list-style-type: none"> 農家は利益が上がらないと農業を継続していくことは困難である。 新規営農は国の新規就農制度があるが、全国では、新規就農に対して、廃業が大幅に上回っている状況である。大阪府内はもっと厳しいだろう。 かつて某企業 A が新規営農に参入したが手を引いた。人件費すら出ないので企業参入は難しい。 また、某企業 B が障がい者雇用の一環として、農業に携わっているが多額の赤字と聞いている。 全国と同様、高齢化と後継者不足である。 将来的には、多くの耕作放棄地が発生すると予測されている。 <p>■ 農地整備（ほ場整備）の遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 他府県に比べて農地整備（ほ場整備）が遅れているため、耕作面で不利な環境にある。 <p>■ 都市農地の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の生産緑地が減少し続けている。平成 29 年には生産緑地法の改正がなされ、自治体の判断で面積要件を引き下げることが可能となった。 	<p>■ 農業経営の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> 農地（農業）を維持するためには、農家収入の向上や収入を補償する制度が必要である。 <p>■ 農業教育の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業を守るためには、子どもたちへの農業教育が最も大切である。 <p>■ 大学等との連携による人材の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業の育成には大学との連携など、地域の資源を活かし、魅力をコーディネートできる人材の確保が重要である。 <p>■ 中山間地域における農業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒廃化が進む中山間地の農地を開発し、平地の優良農地は保全してほしい。 <p>■ 生産緑地の指定面積要件を引下げ、都市農地の保全を図るべきではないか。</p>

<商工会（青年部）>

現状と問題点（課題）	主な意見
<p>【工業】</p> <p>■ 道路整備が不十分</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業団地と幹線道路を結ぶ道路整備が不十分であるため、大型車両での搬入や搬出に苦慮されており、配送面でのハンディがある。 大規模な生産工場などは配送面から高速道路の IC 近くに立地を求める傾向がある。 	<p>■ 大型車両が通行できる道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業団地内の道路は二車線で便利であるが、団地外では搬入・搬出する大型車両が円滑に通行できる道路整備や拡幅整備が必要である。

■ 広い敷地を求めて工場が移転

- 企業団地内の事業所はほぼ満杯の状況ではあるが、配送面などの関係から、近年は高速道路の IC 近くなど道路整備が行き届いた、安くて広い敷地を求めて、奈良の五条、御所方面に移転している傾向がある。また、広大な敷地を求める事業者にとっては、市内に進出しづらい状況である。（企業団地内の敷地は 500 坪程度で 2,000 坪程度を求めているため。）

■ 住宅立地に伴う操業環境への影響

- 企業団地に隣接する準工業地域では住宅の立地が進んでおり、事業所にとって操業しづらい状況となっている。

■ 工場移転が人口減少にも影響

- 企業団地内の事業所は市内従業者も多く、事業所の市外移転は人口減少にも影響していると考えられる。

【商業】

■ 店舗等の用途規制（金剛駅周辺）

- 鉄道乗降客は金剛駅が富田林駅より特に多いが、用途地域の規制が厳しく店舗などの立地が困難である。（平成 27 年乗降客数は金剛駅（34,994 人/年）、富田林駅（13,768 人/年））
- 大規模な集客施設などは集客面から高速道路の IC 近くに立地を求める傾向がある。

【その他】

■ 新たな工業用地の確保

- 新たな工業用地としては、市南東部の国道 309 号に近接する市街化調整区域の地区しかないだろう。

■ 用途地域等の規制の緩和

- 用途地域の見直しも含めて、まちづくりを考えてほしい。
- 駅周辺などの土地活用
- 駅周辺や幹線道路沿道など利便性の高い地区においては、（集客力のある）複合施設などがあると便利である。

■ 歩行者などの安全確保

- 交通量の多い道路では、歩行者の安全確保のため歩道整備が必要である。

■ バスの充実

- 喜志駅-大阪芸術大学-富田林駅を循環するバスや、企業団地、滝谷方面など、路線バスの充実が必要である。

<町総代会>

現状と問題点（課題）	主な意見
<p>■商業・雇用</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内では若者に需要の高い商業施設や働ける場所が少ない。 <p>■富田林寺内町等のPR不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪府唯一の重要伝統的建物群保存地区である「富田林寺内町」をはじめとした、市の魅力が十分に発信されていない。 <p>■空き家や生産緑地</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内では、空き家が増加している。また、区画整理区域内に生産緑地地区があることにより、宅地化が妨げられている。 <p>■大学等との連携不足</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくりに必要な地域大学等との連携がとれていない <p>■自然を活かしたまちづくりの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市は某テレビ番組によると、自然を活かしたまちづくりが評価され「定年後に住んでみたいまち」の上位に選ばれている。 	<p>■若者の定住化</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模集客施設の立地など、若者が住み続けたいと思えるまちづくりが必要である。 企業誘致等により雇用の確保など、若者が流出しないまちづくりが必要である。 <p>■富田林寺内町等を市の顔に</p> <ul style="list-style-type: none"> まず、市民に対して市の魅力を発信する必要がある。その手段として、市の史跡を巡る市民バスを運行してはどうか。 富田林寺内町の歴史的街並みを観光の目玉として打ち出す必要がある。また、観光客を呼び込むための観光バスなどの駐車場の確保が必要である。 <p>■空き家の有効活用や生産緑地制度の見直し</p> <p>■大学等との連携による魅力あるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学等との連携により、地域の資源を活かし、魅力あるまちづくりを創出することが重要である。 <p>■自然の中で感性を磨くことの出来るまちづくりを今後も続けてほしい</p>